現代の倫理 改訂版

倫理309

[著作者]
濱井　修
頼住光子
小寺　聡
三森和哉

A5判・218頁　予価473円

受験に対応した山川の「詳説」倫理教科書

主要な思想家や重要事項を、現代思想の潮流に至るまでしっかりと取り上げ、質・量ともに学習内容を充実させました。

1 豊富な用語とていねいな記述

用語を豊富に盛り込み，生徒の理解をより深められるようていねいに解説し，学習内容を充実させました。

2 さまざまな図版と資料で理解を助ける

生徒が関心をもって読めるよう題材を工夫し，抽象的で難解になりがちな内容を克服するために，図版や資料で理解を助けるように配慮しました。

3 先哲の言葉や体験に直接触れる

先哲の思想の導入として，先哲の印象的な言葉を囲み記事で紹介し，その言葉のもつ意味について興味深く思索することができるよう工夫しました。

Message

『現代の倫理』代表者メッセージ

小寺　聡
（こてら　さとし）
東京都立日野
高等学校講師

高校生がみずからの倫理的課題を主体的に追究できる「高校生の目線に立った教科書」という従来のスタンスを守りつつ，先哲の思想や現代社会の課題についての記述を質・量とも充実させ，現代を生きるために必要な知識を身につけられるように配慮しました。

本書のもう一つの工夫として，先哲の思想の導入として，先哲の印象的な言葉を囲み記事で紹介しています。先哲の言葉に直接触れることによって，その言葉のもつ意味について興味をもって思索できるようにしました。

また，東北の震災からの復興をめざしている今，他者と連帯し，共に生きることは社会全体の大きな倫理的目標になっています。ボランティア活動や地域のコミュニティ活動をとおして結ばれる人間の絆と，他者との共生の意義について考えさせ，現代を生きる高校生の精神的要求や疑問に対応した教科書になっています。

目次

第Ⅰ部　青年期と自己の課題

第1章　青年期と自己の探究　6
プロローグ　もっと大きな自分を探す旅　6
第1節　自己の発見　6
1. 青年期の意義　6　2. 自己との出会い　8
第2節　将来のキャリアを設計しよう　11
1. 自己実現　11　2. 価値の探究　12　3. 自分自身をめざす道　13

第2章　自己と他者　15
第1節　他者とともに生きる　15
1. 情報ネットとコミュニケーション　15　2. 友情と恋愛　16　3. 人の絆　18
第2節　個人と集団　18
1. 社会の中で個性を生かす　18

第3章　生命と自然との出会い　20
1. 生命への目覚め　20　2. 自然への畏敬　23

第Ⅱ部　人間としてのあり方・生き方

第1章　人間としての自覚　26
第1節　人生と哲学　26
1. 哲学とは何か　26
2. ギリシアの思想　27
哲学の誕生：人間の理性の目覚め　27　ソクラテス：善く生きること　30
プラトン：理想を求めて　32　アリストテレス：幸福と習慣　35
ヘレニズムの思想：魂のやすらぎを求めて　ゼノン，エピクロス　38
3. 古代中国の思想　39
孔子：人への思いやりの心　39　孟子：人間の本性は善　42
荀子：人間の本性は悪　43　儒教の発展　朱子，王陽明　44
墨子：戦争否定論　45　老子：自然の道　46　荘子：自由な精神　47

第2節　人生と宗教　48
1. 宗教とは何か　48　2. キリスト教　イエス　50
3. キリスト教の発展　パウロ，アウグスティヌス，トマス＝アクィナス　55
4. イスラーム教　ムハンマド　59　5. 仏教　ブッダ　61　6. 仏教の発展　65

第3節　人生と芸術　67
有元利夫，岡本太郎，星野富弘，エゴン＝シーレ，丸木位里・俊

年間指導計画例

4月 7

5月 7

6月 7

7月 5
9月 5
10月 7
11月 6

第2章 世界の中の日本人 71

第1節 日本人の伝統的な人間観・自然観 71

第2節 日本人と仏教 75
1. 仏教の伝来と受容　聖徳太子　75　2. 平安時代の仏教　最澄，空海　77
3. 鎌倉時代の仏教　法然，親鸞，道元，日蓮　79

第3節 儒教とさまざまな思想 85
1. 江戸時代の儒教　中江藤樹，伊藤仁斎，山鹿素行，荻生徂徠　85
2. 江戸時代の民衆の思想　石田梅岩，二宮尊徳，安藤昌益　91
3. 国学と日本人の心　本居宣長　93　4. 神道の思想　94　5. 洋学と幕末の思想　95

第4節 日本の伝統的な美意識と文化 97

第5節 日本の近代化と西洋思想 98
1. 啓蒙思想と自由民権運動　福沢諭吉，中江兆民　98
2. キリスト教の受容　内村鑑三　101
3. 国粋主義と国家主義　102
4. 人間解放の思想　幸徳秋水，平塚らいてう，田中正造，吉野作造　103
5. 近代的自我の目覚めと苦悩　与謝野晶子，夏目漱石，森鷗外，武者小路実篤　105
6. 日本人の伝統に根ざした思想　西田幾多郎，和辻哲郎　108
7. 民衆の伝承と自然環境の保存　柳田国男，柳宗悦，南方熊楠　111
8. 日本の歩んだ道～戦争と平和　112
9. 第二次世界大戦後の日本の思想　116

第Ⅲ部 現代社会と倫理

第1章 現代社会を生きる倫理 118

第1節 人間の尊厳の思想 118
プロローグ『星の王子さま』～かけがえのない「私」と「あなた」　118
1. ルネサンスの自立的な人間像　ピコ＝デラ＝ミランドラ，マキャヴェリ　119
2. 宗教改革と信仰の心　ルター，カルヴァン　121
3. モラリストの人間観察　モンテーニュ，パスカル　123

第2節 自然と科学技術 125
プロローグ ガリレイの望遠鏡　125
1. 近代科学の誕生　126
2. 科学的なものの見方・考え方　ベーコン，デカルト，コント　127
3. 科学技術と平和・環境問題　130

第3節 民主社会の成立 131
プロローグ 民衆の力～ピープルズ＝パワー　131
1. 自然法の思想　グロティウス　132　2. 社会契約説　ホッブズ，ロック，ルソー　132

第4節 近代の理性的人間像 135
プロローグ 散歩を中止したカント　135
1. 人格の尊厳と道徳　カント　136　2. 精神の発展と歴史　ヘーゲル　139

第5節 人生と働くこと 142
プロローグ『どん底』～天国と地獄　142
1. 社会主義の思想　マルクス　142
2. 自由で公正な社会像　アダム＝スミス，ロールズ，アマーティア＝セン　145

第6節 幸福と生きる力 147
プロローグ『青い鳥』～幸福の青い鳥　147
1. 幸福の追求と社会全体の幸福　ベンサム，J. S. ミル　148
2. 創造的な知性と生きる力　パース，ジェームズ，デューイ，ポパー　150

第7節 真実の自分を求めて 153
プロローグ『赤い繭』～現代人の自己喪失　153
1. 実存としての自己　キルケゴール，ニーチェ　153
2. 自己喪失と自己発見　ヤスパース，ハイデッガー，サルトル　156

第8節 ヒューマニズムと人類の平和 160
プロローグ『シッダルタ』～命の川　160
1. 生命への畏敬と非暴力主義　ガンディー，シュヴァイツァー，キング牧師　161
2. 奉仕とボランティア　アンネ＝フランク，マザー＝テレサ　163
3. 人類に開かれた倫理　ベルクソン，宮沢賢治　165

第9節 新しい知性と現代の思想 167
プロローグ 近代思想の枠組みの克服　167
1. フランクフルト学派と批判的精神　フランクフルト学派，ハーバーマス　168
2. 構造主義と近代社会の批判　レヴィ＝ストロース，フーコー　170
3. 全体主義と虐殺への批判　レヴィナス，ハンナ＝アーレント　172
4. 言葉と身体についての考察　ウィトゲンシュタイン，メルロ＝ポンティ　173
5. 新たな思索の試み　リオタール，クーン，ドゥルーズ，ガタリ　175

第2章 現代の課題と倫理 177

第1節 生命倫理 177

第2節 環境倫理 183

第3節 家族と地域社会 187

第4節 情報社会 190

第5節 世界の文化と宗教 195

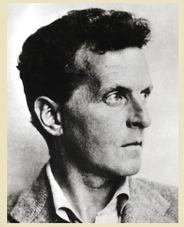
第6節 国際平和と人類の福祉 198

索引 204

12月 7
1月 7
2月 6
3月 6
合計時数 70

詳しいシラバス案はホームページをご覧下さい。

豊富な用語とていねいな記述



ウィトゲンシュタイン

イギリスで活動した言語哲学者。オーストリアに生まれた。航空工学を学ぶが，イギリスにわたりラッセルから哲学・論理学を学んだ。一時，哲学の問題はすべて解決したと考えたが，ふたたびケンブリッジ大学に戻り言語哲学を研究した。

主著『論理哲学論考』『哲学探究』

索した哲学者がいる。イギリスの**分析哲学**❶は言語の意味について考えた。その一人が**ウィトゲンシュタイン**（L. Wittgenstein 1889〜1951）である。

彼は，言語は世界をうつし出すものであり（**写像理論**），さまざまな事実と，それをうつし出す言語との間には，一対一の対応関係が成り立っていると考えた。したがって，神や道徳など事実と対応しないものは，言葉によっていいあらわすことはできない。今までの哲学は，言葉によって語ることができない神や道徳について，言葉によって語ろうとする矛盾をおかしてきたのであり，語り得ないものについては，われわれは**沈黙を守る**べきなのである。

しかし，のちにウィトゲンシュタインは立場をかえ，言語は日常生活に根ざす暗黙のルールによって成り立っていると考えた。そのルールは外側からは学ぶことができず，私たちは会話という**言語ゲーム**に参加しながら，日常生活や習慣の中に織りこまれたそのルールを自然に学んでいくのである。

メルロ＝ポンティ「生きられた身体」

ことば 〈あられ〉という語の意味は，空からふってきたこのかたく，もろく，とけやすい粒々の前での私の驚きのことなのだ。それは人間的なものと，非人間的なものとの一つの出会いである。『知覚の現象学』

人間は身体をとおしてものにふれる。フランスの哲学者**メルロ＝ポンティ**（M. Merleau-Ponty 1908〜61）は，**身体**に注目して，デカルト以来の伝統になっている心と身体，主体と客体を対立させる**心身二元論**（→p.128）を克服しようとした。身体は抽象的な物体ではなく，私たちを世界へとつなぐ媒体であり，私たちは身体によって世界の中に

❶ 言葉の分析をとおして，ある命題がどのような意味で語られているかを明らかにし，日常生活でその命題がもつ意味を解明するのが分析哲学で，**ラッセル**（→p.130）・**ウィトゲンシュタイン・ムーア**（G. E. Moore 1873〜1958）らの思想的な立場はこれに拠っている。

メルロ＝ポンティ

フランスの哲学者。パリの高等師範学校で，哲学・心理学を学んだ。サルトルらと交流したが，意見の違いから論争をおこした。「生きられた身体」を中心に，知覚について柔軟に考察した。市民にひらかれた大学であるコレージュ＝ド＝フランスの教授をつとめた。

主著『眼と精神』『知覚の現象学』

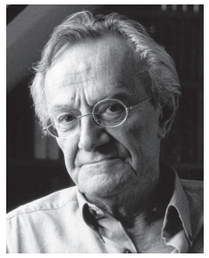
織りこまれている。身体は，主体と客体の両方の要素（**両義性**）をもつ「**生きられた身体**」であり，同時に，世界はたんなる物体ではなく，そのような身体をとおして感じられ，ふれられ，体験された「**生きられた世界**」である。メルロ＝ポンティは，物体にとらわれた抽象的な思考をこえ，身体によってありのままに生きられた豊かな世界の体験を繊細に分析し，そこに私たちの真の**実存**を求めた。

5. 新たな思索の試み

リオタール「大きな物語」から「小さな物語」

フランスの哲学者**リオタール**（J-F. Lyotard 1924〜98）は，世界全体を大きな思想的枠組みで解釈する近代の哲学を「**大きな物語**」と呼んで批判した。従来の哲学は，理性・進歩・社会主義など，大きな思想の枠組みに現実をあてはめ，歴史を一つの方向性によって解釈してきた。しかし，そのような「大きな物語」は社会全体を支配し，他の思想を排除する全体主義をもたらす危険をともなう。

西欧文明とイスラーム文明，経済開発と環境保護など，多様な価値観が共存する現代の**多元的世界**の中では，環境倫理・生命倫理・フェミニズム（feminism）（女性解放運動）など，具体的・個別的な状況で思索する「**小さな物語**」と呼ばれる思想が必要である。具体的な状況について考える「小さな物語」が，たがいの差異を認めあいながら共存することがふさわしいのである。



リオタール　フランスの哲学者。

リオタールのほかに，西欧の哲学の伝統的な基礎をつきくずす**脱構築**によって新しい哲学を模索したフランスの**デリダ**（J. Derrida 1930〜2004），商品は社会的な地位や幸福感など，他者との差異を

先哲の思想や現代社会の課題についての記述を質・量ともに充実させました。例）ウィトゲンシュタイン，ポパー，リオタールなど

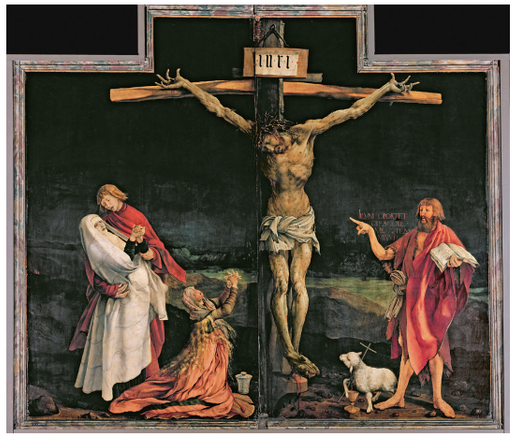
さまざまな図版と資料で理解を助ける

パウロ

キリスト教の使徒。はじめはパリサイ派のユダヤ教徒であったが，復活したイエスの声を聞くという不思議な体験をして，キリスト教に回心したと伝えられる。地中海沿岸を大旅行して伝道し，キリスト教が世界宗教へと発展する礎を築いた。皇帝ネロの迫害を受けて，ローマで殉教したとされる。パウロの書簡が，**「ローマ人への手紙」「コリント信徒への手紙」**として『新約聖書』におさめられ，聖典とされている。

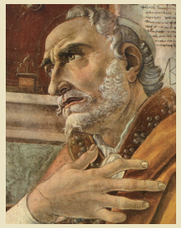
と確信した。そして，過去の生き方を改め，罪深い自分にも注がれるイエスの愛を信じて，キリスト教に**回心**した。

キリスト教では，人間はだれでも，生まれながらの罪である原罪❶をもっているとされる。パウロは，イエスはすべての人間の罪をみずからが背負い，その身代わりとなって十字架で死ぬことによって，人間の罪を贖い，人間を罪から解放したと考えた。このようなイエスの**贖罪**の行為は，罪深い人間を救おうとするイエスの愛のあらわれである。パウロは，すべての人に注がれるイエス＝キリストの愛を信じ，それにならって隣人への愛を実践するべきだと説いた。パウロの教えは，キリスト教をユダヤ教のような民族宗教の枠をこえて，すべての人にひらかれた**世界宗教**へと発展させる原動力となった。



「イーゼンハイム祭壇図」（グリューネバルト作）　本図は，修道院付属施療院礼拝堂の聖アントニウス木像を安置した祭壇の扉絵である。聖アントニウスは当時おそれられていた麦角病を治す聖人とされ，ここに集まった病人たちはみずからの病苦を十字架上のキリストの凄惨な苦しみと重ねたものとされる。（ウンターリンデン美術館蔵，フランス）

❶　人類の先祖であるアダムとイヴが，エデンの園で神の言いつけにそむいてリンゴを食べてしまって以来，その子孫である人間が生まれながらにもつ宿命としての罪。



アウグスティヌス

古代キリスト教会の教父。北アフリカのタガステに生まれ，若い頃は恋愛や演劇に熱中し，またペルシアから伝わったマニ教にも夢中になった。ローマにわたって司教アンブロシウスに出会い，人格的な感化を受けた。32歳のときに，「取りて読め（トーレ，レーゲ）」という子どもの歌声のような声を聞いて聖書をひらき，やがてキリスト教に回心した。教父として，キリスト教の正統な教義の確立につとめた。

主著『告白』『神の国』

アウグスティヌス
恩寵としての神の愛

ことば　あなた（神）は私たちを，ご自身に向けておつくりになったので，私たちの心はあなたのうちに憩うまで，やすらぎを得ることはできないのです。　『告白』

キリスト教は，はじめは迫害を受けたが，313年の**ミラノ勅令**によってローマ帝国から公認され，そののち国教となった。そして，**教皇**（**法王**）を指導者とする**ローマ＝カトリック教会**を中心に，キリスト教はローマ帝国に広まった。この頃，聖書をめぐっていくつもの解釈が生まれ，325年の**ニケーアの公会議**では，父なる神・子なるキリスト・聖霊はその本性において一つであるという**三位一体の教義**❶が確立された。その頃，ローマ＝カトリック教会の正統的な教義を確立し，キリスト教の教えが異教的になることから守ろうとする，**教父**と呼ばれる教会の指導者があらわれた。その代表が，**アウグスティヌス**（Augustinus 354〜430）である。

さまざまな図版や統計資料など，多様な素材を取り上げ，生徒の興味・関心を喚起し，倫理的思索の理解を深められるようにしました。

コラム　梨の実を盗んだ話

「私たち悪い少年たちは夜中に畑に忍びこみ，梨の木から実をゆり落として盗みました…それは，禁じられたことをするのが面白かったからにすぎません。**盗みにおいて愉快だったのは，盗む〈もの〉ではなく，盗む〈こと〉でした。**それも一人では決して愉快ではなかったし，やりもしなかったと思います。ああ，なんというまちがった友情でしょう，わけのわからない精神の誘惑でしょう。遊びや冗談から，ものをそこないたいという熱望と，他人を傷つけたいという欲求が生まれてくるとは…」。これは『告白』の中で，アウグスティヌスが少年の頃，友だちと梨を盗んだ話をみずから語ったものである。

❶　本性において一つである神が，父なる神・子なるキリスト・神の愛や意思を伝える聖霊という三つの位格（ペルソナ）をもつというキリスト教の教義。

**先哲の
ことばや体験に
直接触れる**

中江藤樹

江戸時代の儒学者で，日本陽明学の祖。近江(滋賀県)に生まれた。伊予(愛媛県)の大洲藩につかえるが，郷里の母に孝行をつくすために，脱藩して武士の身分を捨て，近江に帰った。藤樹書院をひらいて庶民の教育につとめ，近江聖人とたたえられた。晩年は陽明学に共鳴した。

主著『翁問答』

(藤樹書院蔵，滋賀県)

伊藤仁斎
愛と誠

ことば われよく人を愛せば，人またわれを愛す。 『童子問』

伊藤仁斎(1627〜1705)は京都で古義堂という塾をひらいて，町人に儒教を教えた。若い学問にうちこんで精神的に苦悩した末に，孔子の『論語』こそ「宇宙第一書」であると確信し，後世の解釈を退けて，『論語』や『孟子』を原典の言葉に忠実に読む**古義学**をとなえた。

仁斎によれば，孔子の教えの根本は**仁**(→p.40)である。仁はもっとも偉大な徳であり，心のうちから**愛**が満ちあふれ，人びとをつつみ，皆が一体になることである。仁や愛を実現するためには，自分に対しても，他人に対しても偽りをもたない純粋な心である**誠**が必要である。誠は，私心のない**真実無偽**の心であり，自分を偽わらず(**忠**)，他者をあざむかない(**信**)ように実践することである。誠によって人との信頼の絆が生まれ，心からの愛が成り立つのである。

山鹿素行
士道

山鹿素行(1622〜85)は，『論語』や『孟子』などの原典を忠実に読む**古学**をとなえた。そして，儒教の道徳にもとづいて，封建社会の支配者としての武士の心がまえ(**士道**)を説いた。戦乱のない時代においては，武士は民衆の道徳的な指導者となり，人の道を教え，それを乱す者を罰し，社会秩序を守る責務をもっている。それだけに，武士は自分にはきびしく，

伊藤仁斎

江戸時代の儒学者で，古義学の祖。京都の堀川の商家に生まれた。学問に専念して精神的に苦悩した末に，『論語』が「宇宙第一」の書物であると確信した。古義堂をひらいて，庶民の教育につとめた。その教えは，長男の伊藤東涯に受け継がれ，堀川学派と呼ばれた。

主著『童子問』『語孟字義』『論語古義』

(天理大学附属天理図書館蔵)

山鹿素行

江戸時代の儒学者で，古学の祖。会津(福島県)に生まれ，江戸で儒学・兵学を教えた。武士の倫理的自覚を求める士道を説いたが，幕府の教学である朱子学を批判したとされて，赤穂(兵庫県)に流された。晩年は許されて江戸に帰った。

主著『聖教要録』

(個人蔵)

分別や清廉さをもち，他人には寛大で包容力のある高貴な人格を磨くよう，**精神の修養**につとめなくてはならない，と素行は説いた。

荻生徂徠
安天下の道

ことば 人の道とは一人についていうものではなく，必ず億万人をあわせた社会の全体についていうものである…億万人を一つにまとめ，親しみ，愛しあい，生み育てる人の本性を十分に発揮させるのが，古代の王がつくった道である。『弁道』

荻生徂徠(1666〜1728)は個人の道徳から政治を独立させ，政治とは人びとが飢えや盗賊におびやかされることがなく，安心して生活できるよう工夫する**安天下の道**であると説いた。その道は，古代中国の王が世の中をおさめ，民衆の生活を安定させる**経世済民**を目的として，人為的につくった社会制度である**礼**・

先哲の代表的な「ことば」89点，「人物解説」72点を掲載。先哲の思想の導入として，先哲の印象的なことばを囲み記事で紹介。先哲のことばや体験に直接触れ，それを手がかりに生徒が主体的に考えられるようにしました。

荻生徂徠

江戸時代の儒学者で，古文辞学の祖。江戸に生まれた。父とともに上総(千葉県)に流され，独学で学問にはげみ，幕府の柳沢吉保によって政治顧問として登用された。その後は江戸の日本橋茅場町に私塾をひらき，古代中国の文献を実証的に研究する古文辞学を確立した。

主著『弁道』『弁名』

(個人蔵)

コラム　士道と武士道

安定的な武家政権が成立した江戸時代には，武士の役割が戦闘者から為政者へと大きく変化し，武士は上に立つ者として天下に道徳を示すべきとされた(**士道**)。それに対して鎌倉時代以来「**弓矢とる身のならい**」として自覚されてきた武士の道徳(**武士道**)では，命を投げ出して**御恩**ある主君のために戦うことが重んじられた。時代の流れに逆らって**武士道**を守ろうとした**山本常朝**は，『**葉隠**』の中で「**武士道というは，死ぬことと見つけたり**」と述べた。

属さないが，まだ，おとなの集団にも属さない。一人前のおとなとして認めてほしいと思う反面，おとなになることへの漠然とした不安をいだき，その中途半端さの中で心が落ちつかないことも多い。

バンジージャンプ　おとなになるために，勇気をためす通過儀礼の一つ。

青年期の延長　近代以前の社会では，一定の年齢に達した子どもは**通過儀礼**(**イニシエーション**)❶を経て，おとなとして認められた❷。しかし，近代にはいって産業が高度化するにしたがい，知識や技術を習得して自立するための準備期間として青年期が生まれ，さらに，その期間が延長されてきた(**青年期の延長**)。今では青年が一定の職業を選択し，人間関係が安定して，一人の人間として自立するためには30歳くらいまでかかるとされている。さらに，急速に変化し続ける現代においては，何ができればおとなになれるかという条件があいまいになり，子どもとおとなの区別そのものがなくなりつつあるとも指摘されている。私たちは，一人ひとりが**自立した自己像**を考えることが必要な時代に生きているといえる。

学習意欲を高める興味深いコラム

2. 自己との出会い

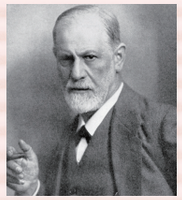
自我の目覚め　青年期になると，私たちは，ふだん生活している自己と，その自分を見つめるもう一人の内面的な自己(**自我**)とにわかれ，**自我意識**にめざめる。自分はまわりのだれとも異なる独自な存在であることを発見し，**自分自身でありたいという欲求**が高まる。

同時にこの時期には，他者から自分がどう見られているかも気になり，**他者の視線**を意識して，自分をすなおに表現できずに萎縮したり，他者に受け入れられようと演技をすることもある。そのような悩みが生まれるのも，それだけ自分を見つめる意識が高まってきた証拠であり，そのような**自己洞察**をとおして，私たちは**自己形成**をおこなう主体的な人間へと成長していく。

❶　誕生・成人・結婚・死亡など，人生の区切りでおこなわれる儀式。お宮参り・七五三・成人式・結婚式・葬式などがある。
❷　フランスの歴史学者**アリエス**は，中世のヨーロッパでは，子どもは「小さなおとな」とみなされておとなとともに働き，今日の意味における**子どもの誕生**は近代からであると説いた。

生徒の興味・関心を高めるねらいで22の「コラム」を取り上げています。
例)「イスラーム教の掟と習慣」「八百万の神と『もののけ姫』」「士道と武士道」など

コラム　フロイトと精神分析学



フロイトはオーストリアの心理学者で，**精神分析学**(**深層心理学**)の創始者である。人間の心を，道徳を心の内面にとりこんだ良心である**超自我**，良心と欲望の調整役をする**自我**，性の衝動などの欲望をたくわえた**無意識**の三層構造にわけた。心の奥底にある無意識には，**エス**や**リビドー**と呼ばれる欲望がたくわえられている。フロイトは，無意識の中に抑圧された欲望が，不安や身体のまひなどの**神経症**(**ヒステリー**)をおこすと考え，患者に自由に思いついたことを語らせる**自由連想法**によって，抑圧された欲望や記憶を意識のもとにひきだし，その束縛から患者を解放する治療をおこなった。

主著『精神分析学入門』『夢判断』

自己と悩み　青年期に自分を意識しはじめることは，自分という一人の人間の**個性**を見つけることでもある。個性はただ他者と比較して人目をひくところがあるという意味ではない。一人ひとりが，だれとも交代することのできない，かけがえのない自分を生きている限り，生きていることそのものが，個性的なできごとなのである。

青年期には，そのような**個としての自分を認めてほしい**という欲求が高まる。それだけに，他者から受け入れてもらえなかったり，ましてや無視されることは大きな苦しみになる。また，他者と比較して自分が劣っていると思いこむ**劣等感**に悩むこともある。逆に自分の主張がとおらないいらだちを，

適応と防衛機制

- 適応
  - 成功
  - 失敗(不適応)(欲求不満)
    - 合理的解決
    - 攻撃(近道反応)
    - 防衛機制
      - 抑圧　満たされない欲求を無意識のうちにおさえ込む
      - 合理化　自分を納得させる理屈づけをおこなう
      - 同一視
        - 摂取(同一視)　他者の長所を取り込む
        - 投射　不都合な感情を他人に転嫁する
      - 反動形成　抑圧した欲求と反対の行動を示す
      - 逃避　苦しみの原因を解決せずに，他のものに逃げ込む
      - 退行　一段階前の発達段階に逆戻りする
      - 置きかえ
        - 代償　よく似た代わりのもので欲求を満たす
        - 昇華　学問や芸術など社会的価値の高いものに欲求を向ける
    - 失敗反応

現代の倫理 改訂版 教授資料

B5判・468頁　本体7000円（税別）

授業展開の参考にしていただける便利な材料を盛り込んだ「授業実践編」と，
用語の詳しい解説や倫理の基本考察をまとめた「研究編」で構成しています。

授業実践編

（研究編 p.202）

1 青年期の意義

導入

1．「倫理」という言葉の意味を理解させ，青年が自己について問いかけ，自己と対自的に向きあうようになる青年期の自己探究の時期に，倫理を一つの「科目」として学ぶことの意義について考えさせ，一年間の「倫理」の学習へと動機づける。
2．「終わりなき旅」という言葉を手がかりに，生徒一人ひとりのもつ将来の人生の豊かな無限の可能性に目覚めさせ，人生を創造する出発点に自分が立っていることを自覚させる。
3．ライフサイクル（人生周期）における青年期の位置づけについて理解させ，自らが青年期において取り組むべき課題と，それが人生においてもつ意義を自覚させる。

指導上の留意点

1．「倫理」という科目が先人の思想史の暗記ではなく，また，一方的な道徳の押しつけでもなく，様々な先人の思想を手がかりとして，生徒一人ひとりが自分のあり方・生き方を主体的，自覚的に考える場であることを理解させ，授業への動機づけを行う。
2．冒頭に紹介されたMr.Childrenの歌詞のように，現代の若者の心をとらえる歌や詩を流すなどして授業に活用し，生徒の身近な生活から素材をとって学習材をつくる工夫をする。

板書例

・倫理という言葉の意味
倫（仲間・共同体）＋理（法則・道理）＝人間社会の基本的なルール，社会規範
↓
人間として歩むべき道筋，人間にふさわしい生き方のルール

・青年期の意義
第二の誕生（ルソー）　→　精神的な目覚め，親からの心理的離乳

・マージナルマン
子どもの集団　青年　おとなの集団
↓
マージナルマン（レヴィン）＝二つの集団の周辺・境界に位置する青年（周
→　過渡期の不安定さ

「板書例」は，単なる箇条書きではなく，重要事項を見取り図的に記し，各テーマのポイントを明瞭に示しています。

授業で生徒に考えさせるテーマについてまとめ，問題意識を持ちながら授業に参加できるようにしました。

資料 Mr.Children「終わりなき旅」

Mr.Childrenは，桜井和寿を中心にする４人の音楽グループである。「終わりなき旅」は，1999年のCDアルバム『DISCOVERY』に収録されており，現代の青春の歌のスタンダードの一つになっている。「高ければ高い壁のほうが，登った時気持ちいいもんな。　まだ限界だなんて認めちゃいないさ」「人はいじつまを合わすように型にはまっていく。誰の真もすんな，君は君でいい。生きる為のレシピなんないさ」と歌われている。

青年期　およそ12〜13歳くらいから22〜23歳くらいまでを指し，児童期から成人期へと成長する期間である。近代以前の社会では，産業や社会制度が単純なため，子どもは成人式などの通過儀礼を通して大人の仲間入りをし，青年期は存在しなかった。しかし，近代に入って文明が高度
が確立されるにつれて
会で自立するための
し，その意義が認
現代ではつねに
急速に変化し続
そのものが不明
まいになってし
や人間像として
対応しながら，
る資質として捉え

写真・地図・資料などとくに重要なものは，授業展開に彩りを添えることのできるようなエピソードを記しました。

倫理を初めて教える先生でもご使用しやすいように，本文内の主なキーワードにはマーカーを引き，サイドでポイントを簡略に説明しています。

第1章　青年期と自己の探究

プロローグ　もっと大きな自分を探す旅

私たちは生きていることに明るい希望をいだき，また，ふと理由のない不安や疑問
[illegible]くに自分を意識し
はじめる**青年期**には，[illegible]，自分は何のため
[illegible]が，これから自分は
何がしたいのか，何をするべきなのか，他
者とどう向きあうべきなのかなど，さまざ
まな**自己への問いかけ**が生まれる。私たちは，これからどのように
ない，未熟で，未完成な存在である。でもそのことは，私た
を探し出し，「もっと大きなはずの自分」を生きる可能性
そのような私たちのまわりには，同じように自分の
いる**友人**がいる。人は，だれもがそれぞれ生きるうえ
な仲間とともに支えあい，語りあいながら，未来の扉
ない未来の白いキャンバスに，自分らしい生き方を描
から人間が生きることの意味や目的について考えてみよ

閉ざされたドアの向こうに
新しい何かが待っていて
きっときっとって　僕を動かしてる
いいことばかりでは無いさ
でも次の扉をノックしたい
もっと大きなはずの自分を探す
終わりなき旅
Mr.Children「終わりなき旅」

教科書の本文を70%に縮小して入れました。

第1節　自己の発見

1. 青年期の意義

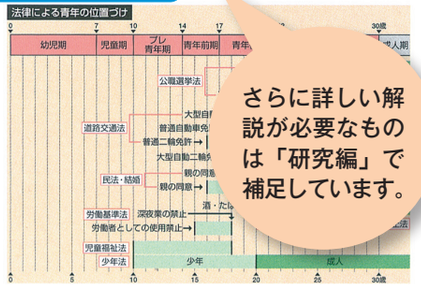
ことば　われわれはいわば二度生まれる。一度目は生存するために，二度目は生きるために，一度目は人類の一員として，二度目は男性として，女性として。
ルソー「エミール」

第二の誕生　親に依存した子どもの状態を抜け出し，自分という存在を意識し，**自分らしく生きたいという欲求**が高まる時期が**青年期**である。12〜13歳の頃から，社会で仕事について経済的に自立しはじめる22〜23歳頃までが，青年期であるとされる。この時期には身体が大きく成長して，男性や女性として成熟し（**第二次性徴**），精神の活動も活発になって，ものごとを自分の視点から考え，判断し，自己主張できるようになる。

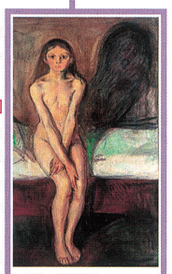
フランスの思想家ルソー（J.J. Rousseau 1712〜78）は，青年期を**第二の誕生**と呼んでいる。一度目は母胎から生まれる生物的な誕生であり，二度目は青年期に自己にめざめ，自覚的に自分を生きようとしはじめる**精神的な誕生**である。それはまた，男性・女性としての自分にめざめることでもある。

子どもとおとなの境界　青年は少しずつ親から精神的に独立していく（**心理的離乳・精神的離乳**）。しかし，まだ社会で一人で生活する力はない。おとなから「もう子どもではないのだから」と甘えや依存心をたしなめられるかと思えば，「まだおとなではないのだから」と行動を制限され，子ども扱いされることもある。

ドイツの心理学者レヴィン（K. Lewin 1890〜1947）は，子どもからおとなへの過渡期にある青年を，**マージナルマン（境界人・周辺人）**（marginal man）と呼んだ。青年はもはや子どもの集団には



さらに詳しい解説が必要なものは「研究編」で補足しています。


「思春期」（ムンク作）

写真『思春期』
ノルウェーの画家ムンクの代表作。少女が見開いた大きな瞳は，外の世界ではなく，自己自身の内面を見つめる自我の目覚めの象徴のようであり，その背景の黒い不気味な影は，未知なる自我への不安や怖れを表わしているかのようである。

第二の誕生　ルソーがその著作『エミール』で，少年が青年期を迎えて，自我に目覚めることを「我々は二度生まれる」と例えた言葉。生物的な誕生の次にくる，人間の精神的な自我の目覚めを指す。

心理的離乳・精神的離乳　青年が親の保護や監督から離れ，一人の人間として精神的に自立することを指す。この時期には親や大人に反抗する第二反抗期を迎えると同時に，親から離れることに対する分離不安があらわれ，青年の心理は大きく動揺する。現代は核家族化と少子化の影響で，親の過保護や過干渉が原因で自立できない子どもや，逆に自分優先の身勝手な親の放任が原因で，大人としてのモデルが見出せずに自立に困難をきたす子どもなど，問題があらわれている。

レヴィン　ドイツのユダヤ人の心理学者で，ナチスの迫害を避けてアメリカに移った。ゲシュタルト心理学を応用して，集団の中における個人の心理を分析するトポロジー心理学を唱え，社会心理学の確立者とされる。個人の行動（B）はその人の状態（P）と環境（E）との関数としてB=f（P，E）で表わすことができると説き，個人の心理がそれを取り囲む社会によってどのような影響を受けるかを研究した。人間はその人の状態と環境の関係から成り立つ生活空間（life space，LSp）に生きており，その生活空間をトポス（場所）や心理的な力の関係を表わすベクトルで分析するトポロジー心理学，場の理論を唱えた。

マージナルマン（境界人・周辺人）　今まで所属していた社会集団から，新しい社会集団に移る際に，いずれの集団にも完全には所属しておらず，部分的に両方の集団の要素をもっていることを表わすレヴィンの用語である。青年期の場合は，青年が子どもの集団にも大人の集団にも完全に属さない過渡期にあり，心理的に不安定であることを表わす。両親が異なる国籍をもつ子どもの場合や，新旧の時代の過渡期に生きる人間にもあてはめることができる。

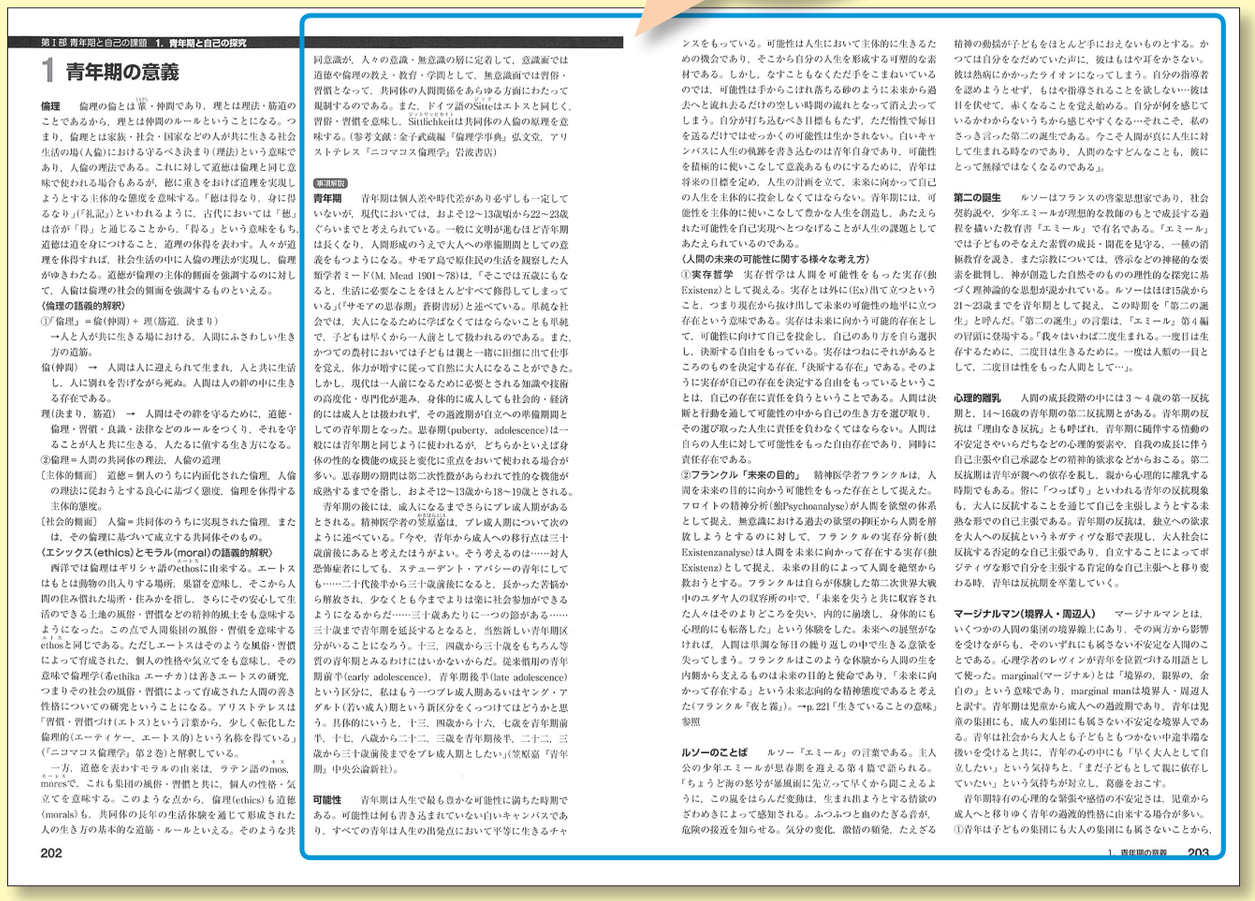
倫理10分間テスト 改訂版

A5判・84頁　本体600円（税別）　2色刷

教科書取扱店にてご注文ください。

研究編

「事項解説」は，ポイントをしぼって解説し，また，授業に役立つ内容，参考となる資料を紹介しています。その他図版の詳しい解説，エピソードなど，先生方のサポートとなる内容をご用意しています。



第1部 青年期と自己の課題　1．青年期と自己の探究

1 青年期の意義

倫理　倫理の倫とは輩（ともがら）・仲間であり，理とは理法・筋道のことであるから，理とは仲間のルールということになる。つまり，倫理とは家族・社会・国家などの人が共に生きる社会生活の場（人倫）における守るべき決まり（理法）という意味であり，人倫の理法である。これに対して道徳は倫理と同じ意味で使われる場合もあるが，徳に重きをおけば道理を実現しようとする主体的な態度を意味する。「徳は得なり，身に得るなり」（『礼記』）といわれるように，古代においては「徳」は音が「得」と通じることから，「得る」という意味をもち，道徳は道を身につけること，道理の体得を表わす。人々が道理を体得すれば，社会生活の中に人倫の理法が実現し，倫理がゆきわたる。道徳が倫理の主体的側面を強調するのに対して，人倫は倫理の社会的側面を強調するものといえる。

（倫理の語義的解釈）

①「倫理」＝倫（仲間）＋理（筋道，決まり）
→人と人が共に生きる場における，人間にふさわしい生き方の道筋。

倫（仲間）　→　人間は人に迎えられて生まれ，人と共に生活し，人に別れを告げながら死ぬ。人間は人の絆の中に生きる存在である。

理（決まり，筋道）　→　人間はその絆を守るために，道徳・倫理・習慣・良識・法律などのルールをつくり，それを守ることが人と共に生きる，人たるに値する生き方になる。

②倫理＝人間の共同体の理法，人倫の道理

〔主体的側面〕　道徳＝個人のうちに内面化された倫理，人倫の理法に従おうとする良心に基づく態度，倫理を体得する主体的態度。

〔社会的側面〕　人倫＝共同体のうちに実現された倫理，または，その倫理に基づいて成立する共同体そのもの。

（エシックス（ethics）とモラル（moral）の語義的解釈）

西洋では倫理はギリシャ語のethos（エートス）に由来する。エートスはもとは動物の出入りする場所，巣窟を意味し，そこから人間の住み慣れた場所・住みかを指し，さらにその安心して生活のできる土地の風俗・習慣などの精神的風土をも意味するようになった。この点で人間集団の風俗・習慣を意味するethosと同じである。ただしエートスはそのような風俗・習慣によって育成された，個人の性格や気立てをも意味し，その意味で倫理学（希ethika エーチカ）は善きエートスの研究，つまりその社会の風俗・習慣によって育成された人間の善き性格についての研究ということになる。アリストテレスは「習慣・習慣づけ（エトス）という言葉から，少しく転化した倫理的（エーティケー，エートス的）という名称を得ている」（『ニコマコス倫理学』第2巻）と解釈している。

一方，道徳を表わすモラルの由来は，ラテン語のmos，mores（モーレス）で，これも集団の風俗・習慣と共に，個人の性格・気立てを意味する。このような点から，倫理（ethics）も道徳（morals）も，共同体の長年の生活体験を通じて形成された人の生き方の基本的な道筋・ルールといえる。そのような共同意識が，人々の意識・無意識の層に定着して，意識面では道徳や倫理の教え・教育・学問として，無意識面では習俗・習慣となって，共同体の人間関係をあらゆる方面にわたって規制するのである。また，ドイツ語のSittlichkeit（ズィットリヒカイト）はエトスと同じく，習俗・習慣を意味し，Sittlichkeitは共同体の人倫の原理を意味する。（参考文献：金子武蔵編『倫理学事典』弘文堂，アリストテレス『ニコマコス倫理学』岩波書店）

事項解説

青年期　青年期は個人差や時代差があり必ずしも一定していないが，現代においては，およそ12～13歳頃から22～23歳ぐらいまでと考えられている。一般に文明が進むほど青年期は長くなり，人間形成のうえで大人への準備期間としての意義をもつようになる。サモア島で原住民の生活を観察した人類学者ミード（M. Mead 1901～78）は，「そこでは五歳にもなると，生活に必要なことをほとんどすべて修得してしまっている」（『サモアの思春期』蒼樹書房）と述べている。単純な社会では，大人になるために学ばなくてはならないことも単純で，子どもは早くから一人前として扱われるのである。また，かつての農村においては子どもは親と一緒に田畑に出て仕事を覚え，体力が増すに従って自然に大人になることができた。しかし，現代は一人前になるために必要とされる知識や技術の高度化・専門化が進み，身体的に成人しても社会的・経済的には成人とは扱われず，その過渡期が自立への準備期間としての青年期となった。思春期（puberty，adolescence）は一般には青年期と同じように使われるが，どちらかといえば身体の性的な機能の成長と変化に重点をおいて使われる場合が多い。思春期の期間は第二次性徴があらわれて性的な機能が成熟するまでを指し，およそ12～13歳から18～19歳とされる。

青年期の後には，成人になるまでさらにプレ成人期があるとされる。精神医学者の笠原嘉（かさはらよしみ）は，プレ成人期について次のように述べている。「今や，青年から成人への移行点は三十歳前後にあると考えたほうがよい。そう考えるのは……対人恐怖症者にしても，ステューデント・アパシーの青年にしても……二十代後半から三十歳前後になると，長かった苦悩から解放され，少なくとも今までよりは楽に社会参加ができるようになるからだ……三十歳あたりに一つの節がある……三十歳まで青年期を延長するとなると，当然新しい青年期区分がいることになろう。十三，四歳から三十歳をもちろん等質の青年期とみるわけにはいかないからだ。従来慣用の青年期前半（early adolescence），青年期後半（late adolescence）という区分に，私はもう一つプレ成人期あるいはヤング・アダルト（若い成人）期という新区分をくっつけてはどうかと思う。具体的にいうと，十三，四歳から十六，七歳を青年期前半，十七，八歳から二十二，三歳を青年期後半，二十二，三歳から三十歳前後までをプレ成人期としたい」（笠原嘉『青年期』中央公論新社）。

可能性　青年期は人生で最も豊かな可能性に満ちた時期である。可能性は何も書き込まれていない白いキャンバスであり，すべての青年は人生の出発点において平等に生きるチャンスをもっている。可能性は人生において主体的に生きるための機会であり，そこから自分の人生を形成する可塑的な素材である。しかし，なすこともなくただ手をこまねいているのでは，可能性は手からこぼれ落ちる砂のように未来から過去へと流れ去るだけの空しい時間の流れとなって消え去ってしまう。自分が打ち込むべき目標もなく，ただ惰性で毎日を送るだけではせっかくの可能性は生かされない。白いキャンバスに人生の軌跡を書き込むのは青年自身であり，可能性を積極的に使いこなして意義あるものにするために，青年は将来の目標を定め，人生の計画を立て，未来に向かって自己の人生を主体的に投企しなくてはならない。青年期には，可能性を主体的に使いこなして豊かな人生を創造し，あたえられた可能性を自己実現へとつなげることが人生の課題としてあたえられているのである。

（人間の未来の可能性に関する様々な考え方）

①**実存哲学**　実存哲学は人間を可能性をもった実存（独Existenz）として捉える。実存とは外に（Ex）出て立つということ，つまり現在から抜け出して未来の可能性の地平に立つ存在という意味である。実存は未来に向かう可能的存在として，可能性に向けて自己を投企し，自己のあり方を自ら選択し，決断する自由をもっている。実存はつねにそれがあるところのものを決定する存在，「決断する存在」である。そのように実存が自己の存在を決定する自由をもっているということは，自己の存在に責任を負うということである。人間は決断と行動を通して可能性の中から自己の生き方を選び取り，その選び取った人生に責任を負わなくてはならない。人間は自らの人生に対して可能性をもった自由存在であり，同時に責任存在である。

②**フランクル「未来の目的」**　精神医学者フランクルは，人間を未来の目的に向かう可能性をもった存在として捉えた。フロイトの精神分析（独Psychoanalyse）が人間を欲望の体系として捉え，無意識における過去の欲望の抑圧から人間を解放しようとするのに対して，フランクルの実存分析（独Existenzanalyse）は人間を未来に向かって存在する実存（独Existenz）として捉え，未来の目的によって人間を絶望から救おうとする。フランクルは自らが体験した第二次世界大戦中のユダヤ人の収容所の中で，「未来を失うと共に収容された人々はそのよりどころを失い，内的に崩壊し，身体的にも心理的にも転落した」という体験をした。未来への展望がなければ，人間は単調な毎日の繰り返しの中で生きる意欲を失ってしまう。フランクルはこのような体験から人間の生を内側から支えるものは未来の目的と使命であり，「未来に向かって存在する」という未来志向的な精神態度であると考えた（フランクル『夜と霧』）。→p. 221「生きていることの意味」参照

ルソーのことば　ルソー『エミール』の言葉である。主人公の少年エミールが思春期を迎える第4篇で語られる。「ちょうど海の怒りが暴風雨に先立って早くから聞こえるように，この嵐をはらんだ変動は，生まれ出ようとする情欲のざわめきによって感知される。ふつふつと血のたぎる音が，危険の接近を知らせる。気分の変化，激情の頻発，たえざる精神の動揺が子どもをほとんど手におえないものとする。かつては自分をなだめていた声に，彼はもはや耳をかさない。彼は熱病にかかったライオンになってしまう。自分の指導者を認めようとせず，もはや指導されることを欲しない…彼は目を伏せて，赤くなることを覚え始める。自分が何を感じているかわからないうちから感じやすくなる…それこそ，私のさっき言った第二の誕生である。今こそ人間が真に人生に対して生まれる時なのであり，人間のなすとんなことも，彼にとって無縁ではなくなるのである」。

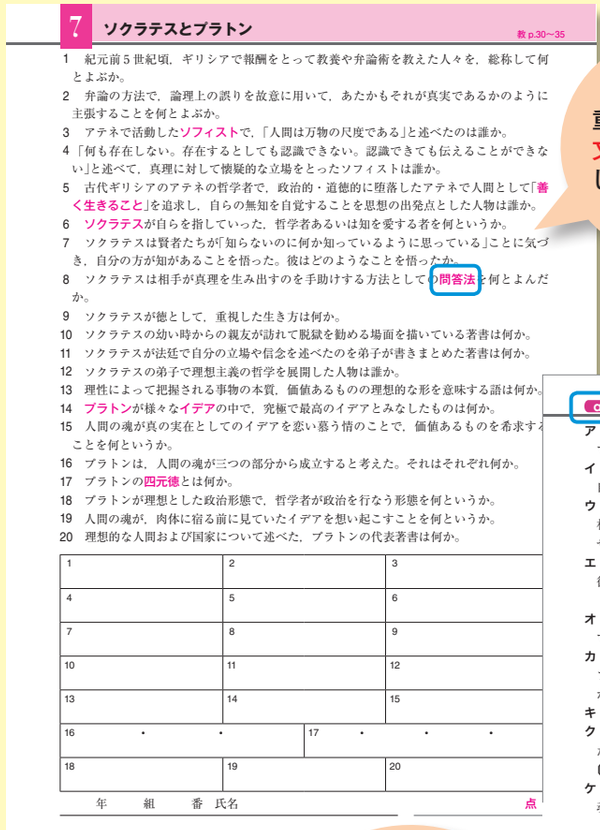
第二の誕生　ルソーはフランスの啓蒙思想家であり，社会契約説や，少年エミールが理想的な教師のもとで成長する過程を描いた教育書『エミール』で有名である。『エミール』では子どものそなえた素質の成長・開花を見守る，一種の消極教育を説き，また宗教については，啓示などの神秘的な要素を批判し，神が創造した自然そのものの理性的な探究に基づく理神論的な思想が説かれている。ルソーははほぼ15歳から21～23歳までを青年期として捉え，この時期を「第二の誕生」と呼んだ。「第二の誕生」の言葉は，『エミール』第4編の冒頭に登場する。「我々はいわば二度生まれる。一度目は生存するために，二度目は生きるために。一度は人類の一員として，二度目は性をもった人間として…」。

心理的離乳　人間の成長段階の中には3～4歳の第一反抗期と，14～16歳の青年期の第二反抗期とがある。青年期の反抗は「理由なき反抗」とも呼ばれ，青年期に随伴する情動の不安定さやいらだちなどの心理的要素や，自我の成長に伴う自己主張や自己承認などの精神的欲求などからおこる。第二反抗期は青年が親への依存を脱し，親から心理的に離乳する時期でもある。俗に「つっぱり」といわれる青年の反抗現象も，大人に反抗することを通じて自己を主張しようとする未熟な形での自己主張である。青年期の反抗は，独立への欲求を大人への反抗というネガティヴな形で表現し，大人社会に反抗する否定的な自己主張であり，自立することによってポジティヴな形で自分を主張する肯定的な自己主張へと移り変わる時，青年は反抗期を卒業していく。

マージナルマン（境界人・周辺人）　マージナルマンとは，いくつかの人間の集団の境界線上にあり，その両方から影響を受けながらも，そのいずれにも属さない不安定な人間のことである。心理学者のレヴィンが青年を位置づける用語として使った。marginal（マージナル）とは「境界の，限界の，余白の」という意味であり，marginal manは境界人・周辺人と訳す。青年期は児童から成人への過渡期であり，青年は児童の集団にも，成人の集団にも属さない不安定な境界人である。青年は社会から大人とも子どもともつかない中途半端な扱いを受けると共に，青年の心の中にも「早く大人として自立したい」という気持ちと，「まだ子どもとして親に依存していたい」という気持ちが対立し，葛藤をおこす。

青年期特有の心理的な緊張や感情の不安定さは，児童から成人へと移りゆく青年の過渡的性格に由来する場合が多い。①青年は子どもの集団にも大人の集団にも属さないことから，

202　　1．青年期の意義　203



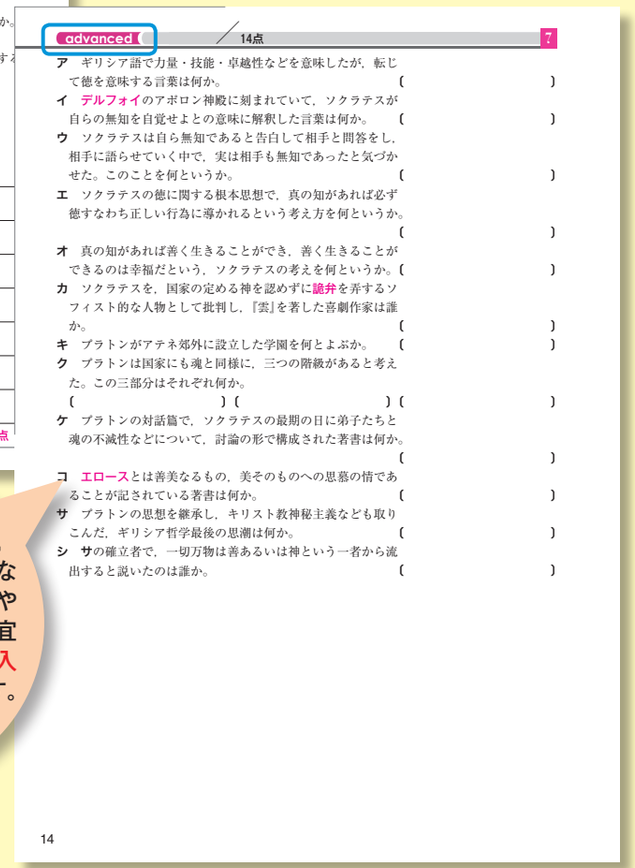
7 ソクラテスとプラトン　教 p.30～35

1 紀元前5世紀頃，ギリシアで報酬をとって教養や弁論術を教えた人々を，総称して何とよぶか。
2 弁論の方法で，論理上の誤りを故意に用いて，あたかもそれが真実であるかのように主張することを何とよぶか。
3 アテネで活動したソフィストで，「人間は万物の尺度である」と述べたのは誰か。
4 「何も存在しない。存在するとしても認識できない。認識できても伝えることができない」と述べて，真理に対して懐疑的な立場をとったソフィストは誰か。
5 古代ギリシアのアテネの哲学者で，政治的・道徳的に堕落したアテネで人間として「善く生きること」を追求し，自らの無知を自覚することを思想の出発点とした人物は誰か。
6 ソクラテスが自らを指していった，哲学者あるいは知を愛する者を何というか。
7 ソクラテスは賢者たちが「知らないのに何か知っているように思っている」ことに気づき，自分の方が知があることを悟った。彼はどのようなことを悟ったか。
8 ソクラテスは相手が真理を生み出すのを手助けする方法としての問答法を何とよんだか。
9 ソクラテスが徳として，重視した生き方は何か。
10 ソクラテスの幼い時からの親友が訪れて脱獄を勧める場面を描いている著書は何か。
11 ソクラテスが法廷で自分の立場や信念を述べたのを弟子が書きまとめた著書は何か。
12 ソクラテスの弟子で理想主義の哲学を展開した人物は誰か。
13 理性によって把握される事物の本質，価値あるものの理想的な形を意味する語は何か。
14 プラトンが様々なイデアの中で，究極で最高のイデアとみなしたものは何か。
15 人間の魂が真の実在としてのイデアを恋い慕う情のことで，価値あるものを希求することを何というか。
16 プラトンは，人間の魂が三つの部分から成立すると考えた。それはそれぞれ何か。
17 プラトンの四元徳とは何か。
18 プラトンが理想とした政治形態で，哲学者が政治を行なう形態を何というか。
19 人間の魂が，肉体に宿る前に見ていたイデアを想い起こすことを何というか。
20 理想的な人間および国家について述べた，プラトンの代表著書は何か。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16 ・ ・	17 ・ ・ ・	
18	19	20

年　組　番　氏名　　点

重要用語は赤太文字で目立たせました。



advanced　14点　7

ア ギリシア語で力量・技能・卓越性などを意味したが，転じて徳を意味する言葉は何か。（　　）
イ デルフォイのアポロン神殿に刻まれていて，ソクラテスが自らの無知を自覚せよとの意味に解釈した言葉は何か。（　　）
ウ ソクラテスは自ら無知であると告白して相手と問答をし，相手に語らせていく中で，実は相手も無知であったと気づかせた。このことを何というか。（　　）
エ ソクラテスの徳に関する根本思想で，真の知があれば必ず徳すなわち正しい行為に導かれるという考え方を何というか。（　　）
オ 真の知があれば善く生きることができ，善く生きることができるのは幸福だという，ソクラテスの考えを何というか。（　　）
カ ソクラテスを，国家の定める神を認めずに詭弁を弄するソフィスト的な人物として批判し，『雲』を著した喜劇作家は誰か。（　　）
キ プラトンがアテネ郊外に設立した学園を何とよぶか。（　　）
ク プラトンは国家にも魂と同様に，三つの階級があると考えた。この三部分はそれぞれ何か。（　　）（　　）（　　）
ケ プラトンの対話篇で，ソクラテスの最期の日に弟子たちと魂の不滅性などについて，討論の形で構成された著書は何か。（　　）
コ エロースとは善美なるもの，美そのものへの思慕の情であることが記されている著書は何か。（　　）
サ プラトンの思想を継承し，キリスト教神秘主義なども取りこんだ，ギリシア哲学最後の思潮は何か。（　　）
シ サの確立者で，一切万物は善あるいは神という一者から流出すると説いたのは誰か。（　　）

14

裏面の「advanced」では，表面で扱うことのできなかった過去の大学入試や教科書の重要語句を適宜盛り込んであります。入試対策にも対応できます。

10分間テストをご採用いただきますと，問題文・解答のテキストデータをサービスでお付けいたします。

CD

現代の倫理 改訂版 ノート

B5判・174頁　本体750円(税別)　2色刷

倫理309準拠

1 青年期の意義

教 p.6～8

❶

学習のポイント「われわれは二度生まれる。一度目は生存するために，二度目は生きるために。」(ルソー)
フランスの思想家ルソー(J-J. Rousseau 1712～78)が，理想の教育をテーマに，少年エミールの成長のプロセスを描いた著作『エミール』の中の言葉。エミールが自我にめざめ，他者のまなざしを意識し，異性との恋愛を体験する青年期を迎える場面で語られる。

思想のマスター

1 青年期の意味

青年期の期間　親に依存した子どもから自立した一人の人間へと成長する，12～13歳頃から22～23歳頃までの期間は(1　　)期と呼ばれる。

0　7　10　14　22　30歳

幼児期	児童期	プレ青年期	(1　)期	(2　　)期	成人期

法律による青年の区分

公職選挙法	選挙権 (3　　)歳以上		
道路交通法	普通自動車免許 (4　　)歳以上		
民法・結婚	結婚できる年齢	親の同意が必要	男性 (5　　)歳以上
			女性 (6　　)歳以上
		両性の同意による	男女 (7　　)歳以上
労働基準法	労働者としての使用の禁止 (8　　)歳未満		
	夜10時以降の深夜業の禁止 (9　　)歳未満		
児童福祉法	児童福祉法の対象 (10　　)歳未満		
少年法(2000年改正)	家庭裁判所による保護処分の対象 (11　　)歳未満		
	ただし(12　　)歳以上は刑事裁判の対象になる場合もある。		

子どもとおとなの境界　青年期に親から精神的に分離して自立してゆくことを，幼児の離乳にたとえて(13　　)と呼ぶ。
また，この時期はおとなへの反発心も生まれるので(14　　)期とも呼ばれる。

ルソー〈18世紀のフランスの思想家〉
「**われわれはいわば二度生まれる。一度目は**(15　　)**するために，二度目は**(16　　)**ために。**」➡ルソーは青年期を(17　　)にたとえている。

レヴィン〈ドイツの心理学者〉
子どもからおとなへと成長する過程で，子どもにもおとなにもどちらの集団にも属さない青年を，(18　　)(境界人・周辺人)と呼んでいる。

2 青年期の延長

近代以前の社会　一定の年齢に達した子どもは，おとなの集団に加入する儀式＝(19　　)(通過儀礼)を経て，共同体のメンバーとして承認され，そこには青年期の考え方はなかった。

↓

近代　近代になると産業が発達し，職業的な技術や知識を習得する期間として(20　　)期が登場した。

↓

現代　産業が高度化し，社会が複雑になるにしたがって教育期間が延び，青年期の(21　　)と呼ばれる傾向があらわれた。さらに，近年は社会の急速な変化に適応するために学習し続けなくてはならず，青年とおとなの区切りが消滅しつつあるとも指摘されている。

〈子ども〉の誕生

アリエス〈フランスの歴史学者。主著『〈子供〉の誕生』〉
中世ヨーロッパの徒弟制度では，子どもはすぐに親方のもとに住みこんで修業し，「小さな(22　　)」とみなされていた。「子ども」の期間の意義が認められる「子どもの誕生」は近代以降である。

マーガレット＝ミード〈アメリカの文化人類学者〉
南太平洋のサモア諸島では，子どもは5歳頃になると生活の知識や技術を身につけておとなの仲間入りをし，そこには青年期に特有の心理的な葛藤が見られない。

3 現代の青年心理の問題

(23　　)人間…**小此木啓吾**(おこのぎけいご)〈精神分析学者・心理学者〉
進路の決定を先延ばしにして，いつまでも人生の選択を猶予された状態にとどまり続け，社会で自立できない青年のこと。

(24　　)シンドローム…**カイリー**〈アメリカの心理学者〉
年齢的にはおとなでも，心理的に少年のままの未熟な状態にとどまる，おとなへの成長を拒む青年をさす。自分を愛する自己愛＝(25　　)をもち，他者に甘えて依存し，その反面で無責任で反抗的である。

(26　　)症候群…どこかに自分にもっとふさわしい仕事や人生があると思いこみ，職業を転々とかえる青年をさし，メーテルリンクの小説の題名にちなむ。

人生についてのQ&A

❸

Q　おとなになるとは，どのようなことを意味するのですか？

A　かつては親から独立して一定の職業につき，結婚して自分の家庭をもてば，一人前のおとなとみなされました。しかし，現代社会はめまぐるしく変化し，職業で必要とされる知識や技術がすばやく進歩し，生活スタイルが多様化して，何ができればおとなかという一定の条件が見えにくくなっています。経済的にも精神的にも親や他人に甘えず，他者と連帯しながら，みずからの力で自分らしい人生を生きていると自信をもっていえる人が，一人前のおとなではないでしょうか。

❶**学習のポイント**　生徒がつねに「何を考えるのか」というテーマを考えられるようにしました。
❷生徒が教科書を見て，解答欄に記入しながら，内容を深く理解することができます。
❸**人生についてのQ&A**　倫理を学ぶことへの興味・関心をより高められるように設けました。難しい用語なども，Q&A形式で私たちの生き方に関連づけながら解説しています。

ノートをご採用いただきますと，解答入りのPDFデータをサービスでお付けいたします。

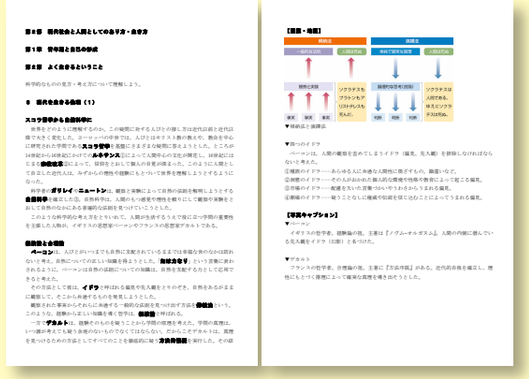
倫理309 現代の倫理 改訂版

教科書ソフト

教科書の本文や地図・図版といった教科書に掲載されているデータに加え，『教授資料』から板書例や解説，テストやプリント作成に役立つイラストや白地図，年表，準拠テスト例などの素材をＣＤに収録しました。さらに，操作方法などを説明した「教科書ソフト活用ガイド」も収録しております。

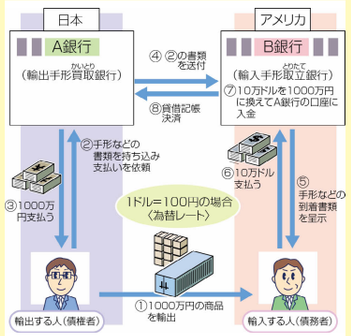
❶教科書データ Word

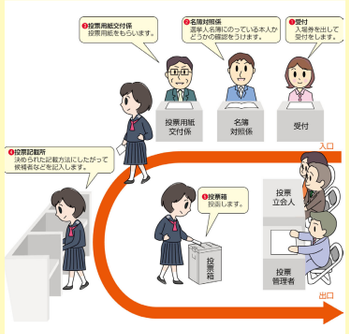
教科書の本文，注，写真キャプションといった文字情報のほか，地図や図版も収録しています。



❷地図・図版 JPEG

教科書に掲載されている地図や図版をすべて収録(写真を除く)。テストや授業プリントなどに貼りつけてご使用ください。



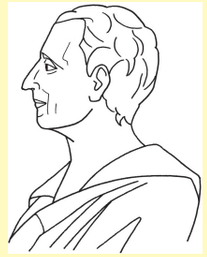


❸白地図 JPEG

日本と世界の地図を収録しています。

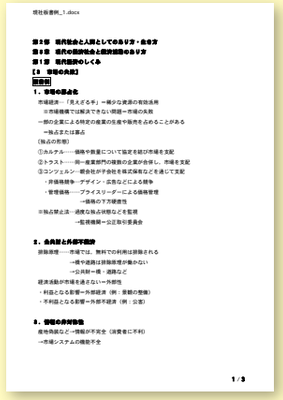
❹イラスト JPEG

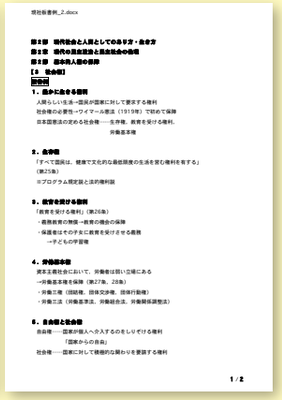
プリントやテスト作成などの際，ワンポイントで使える人物のイラストを多数収録。



❺板書例・発問例・解説 Word

『教授資料』より，『現代社会』『詳説政治・経済』では板書例・発問例/答・用語解説を，『現代の倫理』では板書例・発問例/答・人物解説を収録しています。





❻資料 Word JPEG

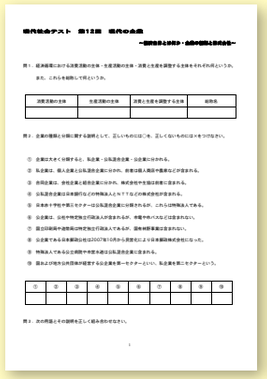
『現代社会』の参考資料などを収録しています。

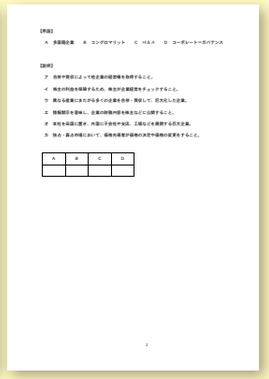
❼年表 Word

『現代社会』『詳説政治・経済』では第二次世界大戦後のあゆみ，『現代の倫理』では倫理関連年表を収録しています。

❽テスト例 Word

テスト例を収録。Word形式なので授業の進度に合わせて編集可能です。





❾デジタルブック PDF

教科書のレイアウトをそのままに，デジタルブック(PDF)として収録しました。

❿山川外字フォント

教科書で使用している外字フォントがインストールできます。

現社323	政経316	倫理309
現代社会 改訂版	**詳説政治・経済** 改訂版	**現代の倫理** 改訂版
商品番号：72-053	商品番号：72-063	商品番号：72-043

本体価格：各9000円(税別)

対応機種　Windows 10/8.1
対応ソフト　Microsoft Word 2013以上
対応ブラウザ　Internet Explorer Ver.11以上

現代社会
政治・経済
倫理

教科書一覧

現社 323

政経 316

倫理 309

著作者・編集協力者

（2020 年 3 月現在，五十音順）

秋元 仁（あきもと・ひとし）
東京都立調布北高等学校教諭
公民教育
●現代社会

小寺 聡（こてら・さとし）
東京都立日野高等学校講師
公民教育・倫理学
●現代の倫理

篠田 健一郎（しのだ・けんいちろう）
東京都立西高等学校教諭
公民教育
●現代社会

平島 健司（ひらしま・けんじ）
東京大学教授
比較政治
●詳説 政治・経済

山崎 広明（やまざき・ひろあき）
東京大学名誉教授
日本経営史
●詳説 政治・経済

小美野 清一（おみの・きよかず）
東京都千代田区立九段中等教育学校教諭
公民教育
●現代社会

近藤 幹雄（こんどう・みきお）
神奈川県立茅ケ崎北陵高等学校教諭
公民教育・経済学
●詳説 政治・経済

玉井 義浩（たまい・よしひろ）
神奈川大学教授
経済理論
●現代社会

三森 和哉（みもり・かずや）
東京都立北園高等学校教諭
公民教育・日本思想史
●現代の倫理

頼住 光子（よりずみ・みつこ）
東京大学教授
日本倫理思想史
●現代の倫理

粕谷 誠（かすや・まこと）
東京大学教授
日本経営史
●詳説 政治・経済

齊藤 愛（さいとう・めぐみ）
千葉大学教授
公法学
●現代社会

出川 清一（でがわ・きよかず）
神奈川大学講師
公民教育・政治学
●詳説 政治・経済

宮崎 三喜男（みやざき・みきお）
東京都立国際高等学校教諭
公民教育
●現代社会

金子 幹夫（かねこ・みきお）
神奈川県立三浦初声高等学校教諭
公民教育
●現代社会

阪口 正二郎（さかぐち・しょうじろう）
一橋大学教授
比較憲法学
●詳説 政治・経済

濱井 修（はまい・おさむ）
東京大学名誉教授
倫理学
●現代の倫理

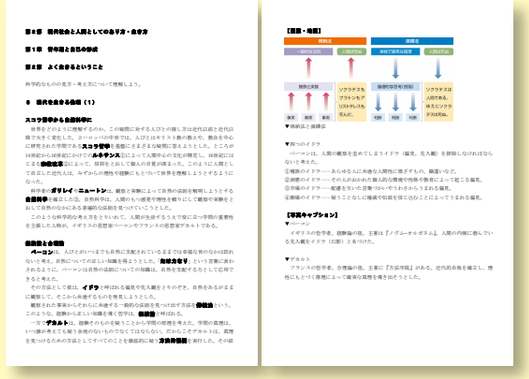
山岡 幹郎（やまおか・みきろう）
元麻布高等学校教諭
公民教育
●現代社会

教科書ソフト

教科書の本文や地図・図版といった教科書に掲載されているデータに加え，『教授資料』から板書例や解説，テストやプリント作成に役立つイラストや白地図，年表，準拠テスト例などの素材をＣＤに収録しました。さらに，操作方法などを説明した「教科書ソフト活用ガイド」も収録しております。

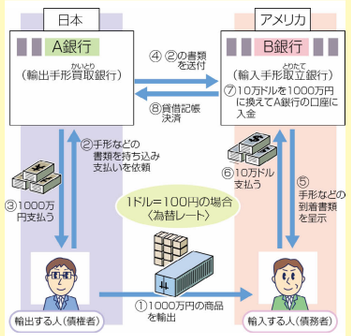
❶教科書データ Word

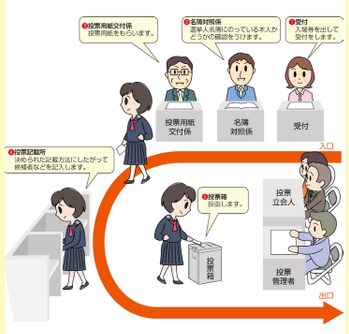
教科書の本文，注，写真キャプションといった文字情報のほか，地図や図版も収録しています。



❷地図・図版 JPEG

教科書に掲載されている地図や図版をすべて収録(写真を除く)。テストや授業プリントなどに貼りつけてご使用ください。



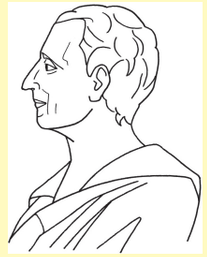


❸白地図 JPEG

日本と世界の地図を収録しています。

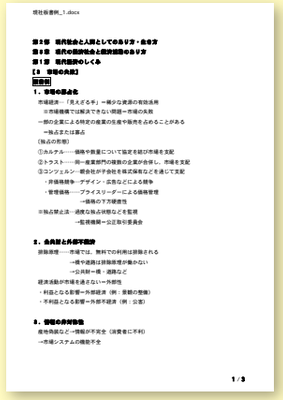
❹イラスト JPEG

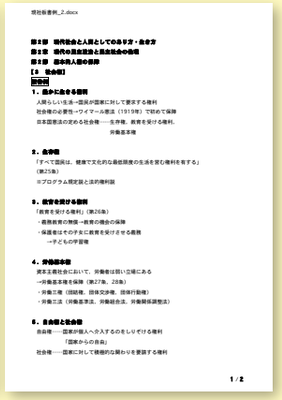
プリントやテスト作成などの際，ワンポイントで使える人物のイラストを多数収録。



❺板書例・発問例・解説 Word

『教授資料』より，『現代社会』『詳説政治・経済』では板書例・発問例/答・用語解説を，『現代の倫理』では板書例・発問例/答・人物解説を収録しています。





❻資料 Word JPEG

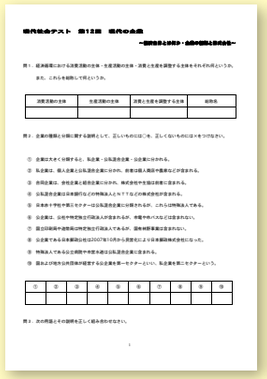
『現代社会』の参考資料などを収録しています。

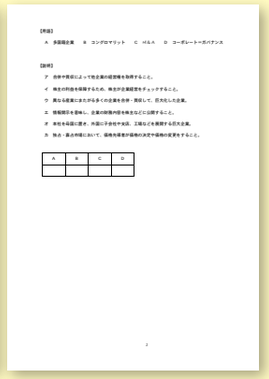
❼年表 Word

『現代社会』『詳説政治・経済』では第二次世界大戦後のあゆみ，『現代の倫理』では倫理関連年表を収録しています。

❽テスト例 Word

テスト例を収録。Word形式なので授業の進度に合わせて編集可能です。





❾デジタルブック PDF

教科書のレイアウトをそのままに，デジタルブック(PDF)として収録しました。

❿山川外字フォント

教科書で使用している外字フォントがインストールできます。

現社323	政経316	倫理309
現代社会 改訂版	**詳説政治・経済** 改訂版	**現代の倫理** 改訂版
商品番号：72-053	商品番号：72-063	商品番号：72-043

本体価格：各9000円(税別)

対応機種　Windows 10/8.1
対応ソフト　Microsoft Word 2013以上
対応ブラウザ　Internet Explorer Ver.11以上

現代社会
政治・経済
倫理

教科書一覧

現社 323

政経 316

倫理 309

著作者・編集協力者

（2020 年 3 月現在，五十音順）

秋元 仁（あきもと・ひとし）
東京都立調布北高等学校教諭
公民教育
●現代社会

小寺 聡（こてら・さとし）
東京都立日野高等学校講師
公民教育・倫理学
●現代の倫理

篠田 健一郎（しのだ・けんいちろう）
東京都立西高等学校教諭
公民教育
●現代社会

平島 健司（ひらしま・けんじ）
東京大学教授
比較政治
●詳説 政治・経済

山崎 広明（やまざき・ひろあき）
東京大学名誉教授
日本経営史
●詳説 政治・経済

小美野 清一（おみの・きよかず）
東京都千代田区立九段中等教育学校教諭
公民教育
●現代社会

近藤 幹雄（こんどう・みきお）
神奈川県立茅ケ崎北陵高等学校教諭
公民教育・経済学
●詳説 政治・経済

玉井 義浩（たまい・よしひろ）
神奈川大学教授
経済理論
●現代社会

三森 和哉（みもり・かずや）
東京都立北園高等学校教諭
公民教育・日本思想史
●現代の倫理

頼住 光子（よりずみ・みつこ）
東京大学教授
日本倫理思想史
●現代の倫理

粕谷 誠（かすや・まこと）
東京大学教授
日本経営史
●詳説 政治・経済

齊藤 愛（さいとう・めぐみ）
千葉大学教授
公法学
●現代社会

出川 清一（でがわ・きよかず）
神奈川大学講師
公民教育・政治学
●詳説 政治・経済

宮崎 三喜男（みやざき・みきお）
東京都立国際高等学校教諭
公民教育
●現代社会

金子 幹夫（かねこ・みきお）
神奈川県立三浦初声高等学校教諭
公民教育
●現代社会

阪口 正二郎（さかぐち・しょうじろう）
一橋大学教授
比較憲法学
●詳説 政治・経済

濱井 修（はまい・おさむ）
東京大学名誉教授
倫理学
●現代の倫理

山岡 幹郎（やまおか・みきろう）
元麻布高等学校教諭
公民教育
●現代社会